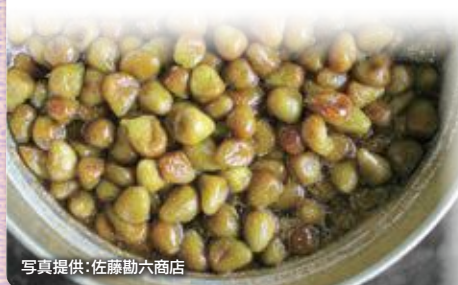




にかほ市いちじく振興会 「北限のいちじく」盛り上がってます！

所在地	にかほ市金浦字花淵
品目等	いちじく
作付面積	15.8ha
構成戸数	69戸



写真提供：佐藤勲六商店



- ①平成26年に、いちじくの栽培技術の向上とブランド化を目的として、生産者とJA秋田しんせい、佐藤勲六商店(加工業)、にかほ市、由利地域振興局により組織されました。
- ②会では、「いちじく」を単なる特産品として継承するだけでなく、加工品開発による高付加価値化や、新規作付者の掘り起こし等の活動を通じ、いちじくを中心とした地域おこしに取り組んでいます。
- ③会の発足から令和元年度までの6年間で、作付面積は8ha、作付者は43戸増加しています。また、令和2年3月には、「大竹いちじく」として地理的表示(GI)保護制度に登録されたことで、知名度が飛躍的に向上し、地域全体が「誇り」と「自信」を持てる地域資源となっています。



横手観光ぶどう会 ぶどうの直売を核にした地域の活性化

所在地	横手市大沢・山内地域
品目等	ぶどう
構成戸数	52戸



- ①昭和43年に会が設立されて以降、50年にわたり、県内屈指のぶどう産地である横手市大沢・山内地域において、ぶどうの直売等を通じた地域活性化に取り組んできました。
- ②収穫時期には、国道107号沿いに15か所の直売所を開設するほか、会員個々の園地等でも新鮮な完熟ぶどうの直売を行っており、県内外から多くの観光客が訪れることで、地域の賑わいを創出しています。
- ③会では、園地巡視会や視察研修等によって栽培技術の向上を図り、消費者に選ばれる産地づくりに努めるとともに、ぶどうの直売にとどまらず、横手の送り盆まつりでの市民盆踊りへの参加や花火の提供など、様々な地域貢献活動に取り組んでいます。



羽後町産直会「端縫の里」 小さくてもキラリと光る直売所を目指して

所在地	雄勝郡羽後町西馬音内字中野
品目等	農産物(野菜、果樹、花き等)、加工食品、手芸工芸品等
会員数	177名
構成戸数	69戸



- ①平成27年に羽後町産直会「端縫の里」が設立され、平成28年の道の駅うご「端縫いの郷」のオープンと同時に、直売活動を開始しました。
- ②「より良い品質のものを作る」をモットーとし、各種研修会を開催したり、基準を満たさない出品者に対して罰則規定を設けることなどにより、消費者から信頼される直売所を目指しています。
- ③組織内に野菜、花き、加工食品、手芸工芸、果樹、イベントの6部会を置き、それぞれが積極的に活動しています。中でも、販売イベント等を通じて、会員自らが消費者と交流を行い、消費者の声を新たな農産物の栽培や加工品の開発に結びつけていることが直売所の大きな魅力となっています。



令和2年度

ふるさと秋田 農林水産大賞

受賞者の業績

産地部門

あきた北農業協同組合 ねぎ部会	大館市	大賞
うご農業協同組合 花卉園芸部会 トルコギキョウ専門部会	羽後町	大賞

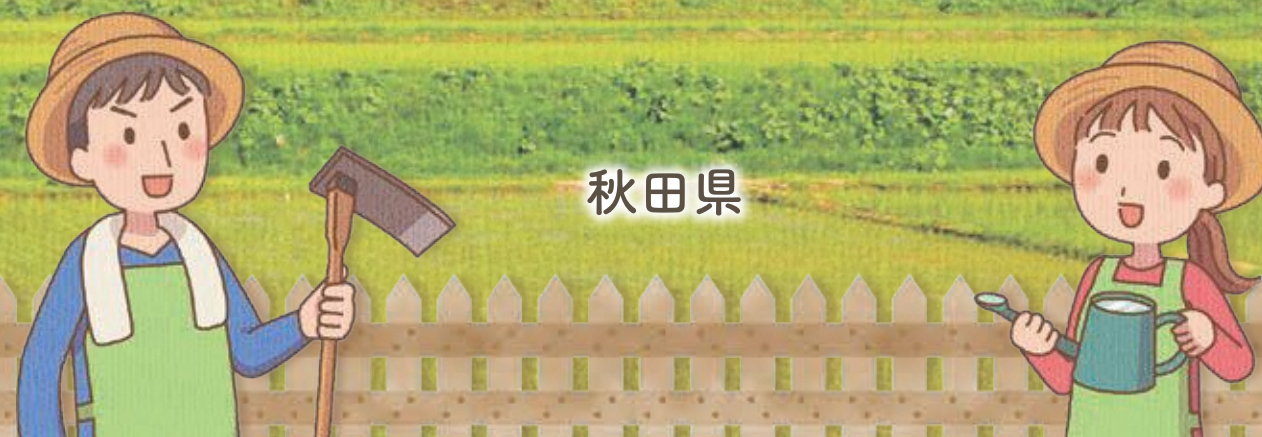
担い手部門

【経営体の部】		
農事組合法人 イカワ改拓社	井川町	大賞
有限会社 アグリフライト大曲	大仙市	農林水産大臣賞・大賞
【未来を切り拓く新規就農の部】		
石田 慎一郎	大館市	大賞

農山漁村活性化部門

にかほ市いちじく振興会	にかほ市	農林水産大臣賞・大賞
横手観光ぶどう会	横手市	大賞
羽後町産直会「端縫の里」	羽後町	大賞

秋田県



大賞の概要

先人が作り上げた美田や農産物、豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいくため、「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農山漁村づくりを推進します。



各部門の表彰対象

産地部門

産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む農業者等で組織する集団

担い手部門

経営体の部

農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等

未来を切り拓く新規就農の部

地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参加者等

農山漁村活性化部門

6次産業化に取り組み、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化する活動を行っている法人、集落、集団等

産地部門

大賞 あきた北農業協同組合 ねぎ部会 「ねぎ1億円産地」の復活を目指して

所在地	大館市出川字上野
品目	ねぎ
栽培規模	9.3ha
構成戸数	33戸



- ①JAあきた北管内におけるねぎ栽培の歴史は古く、昭和46年の減反政策開始を機に生産が本格化しました。部会員の高齢化により、栽培面積は減少傾向にありましたが、近年は、販売額1億円を目標に、作業体系の見直しや保冷輸送体制の整備が進められています。
- ②同JAでは、ねぎを重点品目に位置付け、JA独自の助成制度を設けており、新規作付者の確保や大規模化への誘導が進み、作付面積、部会員数の維持につながっています。
- ③栽培講習会や目揃会により、技術の標準化や品質の統一が図られており、市場から高い評価を得ています。また、廃棄を出さない出荷体制の構築に向け、規格外品の加工向け出荷にも取り組んでいます。



大賞 うご農業協同組合 花卉園芸部会 トルコギキョウ専門部会 トルコギキョウの伝統産地が新たに首都圏へ 羽ばたく

所在地	雄勝郡羽後町足田字泉田
品目	トルコギキョウ
栽培規模	140a
構成戸数	8戸



- ①JAうご管内は、県内で最も早くからトルコギキョウの生産に取り組んだ地域で、平成10年に部会を設立し、分析結果に基づく土壌管理や連作障害を回避する土壌消毒など、安定生産のための技術を築き上げてきました。
- ②豪雪地帯における周年農業の確立を目指し、トルコギキョウを基幹に施設利用率の高い経営を実践するとともに、園芸メガ団地事業で整備した大規模団地において、スマート農業技術を駆使した品質向上、労力削減に取り組んでいます。
- ③消費地の生の声を把握するため、東京や仙台で「JAうごトルコギキョウフェア」を開催しているほか、国内最先端の流通技術による品質管理に努め、平成28年には「花き日持ち品質管理認証」を取得しています。



担い手部門

経営体の部



農事組合法人 イカワ改拓社 10年後に10年続く農業を目指して

所在地	南秋田郡井川町今戸字寺ノ内
品目	水稻、ねぎ、大豆
作付面積	水稻 48ha、ねぎ 2ha、大豆 5ha



- ①平成28年に4名の構成員で設立し、水稻・ねぎ・大豆の複合経営を行っています。法人名は、「先人が開拓して現在につないできた農地・農業を継承し、改めて未来を拓く!」との思いから命名されました。
- ②複合部門の柱であるねぎは、平成30年に地下灌漑システムを導入し、6月末から3月上旬までの長期出荷を実現しています。
- ③平成29年にほ場管理システムを導入し、分散するほ場の管理作業を見える化するとともに、蓄積したデータを生かし、無理・無駄・ムラをなくした作業の効率化に取り組んでいます。また、4名の従業員を通年で雇用し、日・祝日完全休暇制や労働保険、社会保険への加入など、他業種と遜色ない雇用条件を整備しています。



経営体の部

有限会社 アグリフライト大曲 若い力・集落の力・能力アップで地域をつなぐ

所在地	大仙市内小友字仙北屋
品目	いちご、水稻、無人ヘリ防除受託
作付面積等	いちご1,000坪、水稻25ha、無人ヘリ防除4,500ha



- ①平成7年に設立した無人ヘリ防除組織が母体となり、平成17年に水稻部門を含めて法人化しました。平成25年には新規部門として施設いちごの栽培を始め、平成30年からは農福連携にも取り組むほか、令和2年にはいちごハウスを増棟するなど、攻めの農業を実践しています。
- ②いちご狩りを通じて、地域の子供達に食育や農業学習の場を提供しているほか、品質の安定化に向けて環境制御装置を導入するなど、地域におけるICT導入の先駆者となっています。
- ③無人ヘリ防除は、大仙市全域だけでなく、隣接する横手市まで広域的に請け負っており、地域農業を支える貴重な存在となっています。



未来を切り拓く新規就農の部

石田 慎一郎

きゅうりで経営の確立を目指す！
～若き農家の挑戦～

所在地	大館市雪沢字小雪沢
品目	きゅうり、スナップエンドウ
作付面積	きゅうり 15a(露地11a、施設4a)、スナップエンドウ 5a



- ①平成27年に稲作主体の親元で就農しましたが、園芸品目主体の経営の確立を目指して平成30年に独立し、露地きゅうり栽培をスタートしました。
- ②山に囲まれた当地域において、限られた日照時間を有効に活用するため、小まめな葉かき作業により採光を確保し、株への負担軽減を心がけています。また、ほ場をよく観察し、病害虫の適期防除に努めています。
- ③今年度からは新たにハウスを取得し、抑制栽培を導入することで出荷期間の拡大を図っており、病害の発生を露地栽培より少なく抑えながら、露地栽培終盤の端境期に出荷することにより、高単価での販売を実現しています。

